

平成24年1月30日

## 平成24年度政府予算案（広島大学関係分）について

平成24年度政府予算案については、平成23年12月24日に閣議決定されたところですが、政府予算案に盛り込まれた本学の運営費交付金予定額については、以下のとおりです（詳細は別紙の概要資料を参照）。

平成24年度運営費交付金予定額	257億97百万円
（平成23年度運営費交付金予算額	268億65百万円）

なお、平成24年度政府予算案に新規に盛り込まれ、特別経費による実施を予定している事業のうち主なものについては、別紙資料をご覧ください。

事業名	担当部局	資料No.
アジアと連携したグローバル化対応型高度歯科医療人教育システムの構築	歯学部	資料1
こころのストレス脆弱性克服のための医学・脳科学・教育学連携プロジェクト	医歯薬保健学研究科 教育学研究科 総合科学研究科 原爆放射線医科学研究所	資料2
政府予算案に盛り込まれた特別経費（プロジェクト等）全事業（資料1及び2に該当するものは右欄外に※を付しています）		資料3

また、平成24年度に予定している入学定員増減については、参考として、平成23年9月29日の第21回学長定例記者会見において発表しました「大学院医歯薬保健学研究科の設置について」の資料を添付しておりますので、併せてご覧ください。

## 【お問い合わせ先】

財務企画グループ TEL:082-424-6069
------------------------------

## 平成24年度運営費交付金予定額の概要

## ○運営費交付金の確保

平成24年度予定額 257億97百万円【対前年度比10億68百万円(4.0%)の減】  
平成23年度予算額 268億65百万円

【概要】平成24年度は大学改革促進係数対象経費が▲1.3%の減額(▲2億56百万円)となっている。

## 【主要事項】

- 特別経費(プロジェクト事業等) 11億31百万円
- 授業料免除枠の拡大 6億37百万円  
意欲と能力のある学生が経済状況にかかわらず修学の機会を得られるよう平成23年度予算に引き続き授業料免除枠を拡大。  
また、成績優秀者等の卓越した学生に対する授業料免除が盛り込まれているとともに、東日本大震災による被災学生に対する授業料等免除(復興特別会計計上分)も措置されている。(74百万円増額)
- 附属病院機能強化分(特別経費【再掲】)4億53百万円  
地域医療における高度医療拠点として教育・研究・診療機能の強化の更なる充実を図るとともに、質の高い医療人の養成に向けた環境整備等に対して重点的に支援。  
また、未来型医療システム構築の中心的役割を担う大学病院が行う先進医療に関する研究や治験実施の取組などに対して重点的に支援することで、臨床研究体制の強化を図る。
- 大学改革促進係数対象経費 ▲2億56百万円  
学部・大学院の学生数から算定された教員数に対応する人件費や教育研究経費を除き、前年度予算額から▲1.3%を削減。

## 平成 24 年度 特別経費（プロジェクト分）

### ○事業名

アジアと連携したグローバル化対応型高度歯科医療人教育システムの構築

### ○事業概要

急激な歯科医療の国際化に対応するために国際歯学コースの開設による国際共同プログラムを実施し、日本人学生、教職員のグローバル化対応力を強化するとともに、今後飛躍的な成長が見込まれるアジアにおける歯科医学・医療分野の指導的人材育成を行い、国際医療人ネットワークを形成する。

### アジアと連携したグローバル化対応高度歯科医療人教育システムの構築

急激な歯科医療の国際化に対応するために国際歯学コースを開設し、歯学部日本人学生ならびに教職員のグローバル化対応力を強化するとともに、今後の飛躍的な成長が見込まれるアジアにおける歯科医学・医療分野の指導的人材育成を行い、国際医療人ネットワークを形成する。



本件に係る照会先

高田 歯学部長

082-257-5600

## ○ 事業の目的, 必要性・重要性, 取組内容の概要, 期待される効果

### 【目的】

国際歯学コースを開設することによって、日本人学生及び教職員のグローバル化対応力を強化し、急激な医療の国際化に対応できる人材育成を行う。アジアにおける歯科医学分野の指導的人材育成に貢献することによって、アジアでの国際医療人ネットワーク形成を目指す。

### 【必要性・重要性】

急速に進展する歯科医療の国際化により、グローバル化対応能力を備え国際社会で活躍できる歯科医療人の育成が必要不可欠となっており、学部学生に対する国際感覚の醸成とグローバル化対応力の強化、アジアにおける将来の指導的人材とのネットワーク形成は極めて重要である。

### 【取組内容の概要】

#### 1) 国際歯学コースの開設による国際共同プログラムの実施

国際歯学コースの開設により、国際共同プログラムを実施する。日本人学生とアジアからの学生との合同で講義を行うため、英語と日本語による dual linguistic education システムを開発・活用する。

#### 2) グローバル化対応型高度医療人育成のための基盤形成

日本人学生をグローバル化に対応した高度医療人に育成するため、dual linguistic education システムによる講義や実習により語学能力の向上を図るとともに、海外の大学に派遣しグローバル化対応の必要性を経験させる。教職員についても、類似のプログラムを有する教育機関への派遣や英会話研修によりスキルアップを図る。

#### 3) 国際共同プログラムの評価

1期生が基礎専門科目教育から臨床専門科目教育へと移行する平成25年度と1期生が修了する平成27年度に評価を行い、平成28年度には評価結果に基づいて、ジョイントディグリー等への発展性等を検討する。

### 【期待される効果】

歯科医療の国際化の中で活躍できる人材を輩出することができる。また、アジアにおける歯科医学分野の指導的人材育成に貢献できるとともに、日本人学生との指導的人材ネットワークを形成することで、今後需要が高まる歯科医学・医療分野の国際相互認証システム構築に繋がる。

## 平成 24 年度 特別経費（プロジェクト分）

### ○事業名

こころのストレス脆弱性克服のための医学・脳科学・教育学連携プロジェクト

### ○事業概要

うつ病などのストレス性精神疾患の発症に関与するストレス脆弱性の脳内機構や分子基盤を解明し、早期診断法及び根本的治療法の開発を行うとともに、医学、脳科学、教育学の学際的研究により、脳科学的根拠に基づくストレス脆弱性克服のための教育プログラム・治療プログラムを開発する。

#### こころのストレス脆弱性克服のための医学・脳科学・教育学連携プロジェクト

##### 背景・課題・必要性

- グローバル化、市場経済、高度IT化（インターネット等）による超ストレス社会
- 虐待、いじめ、不登校、薬物乱用、PTSD、うつ病、自殺など世代を超えたストレス関連精神疾患の急増 → 労働力人材不足 → 国家危機
- 東北大震災、原発事故被災者のPTSD予防などこころのケア対策
- わが国の課題
  - ・高齢化人口動態において、将来を担うストレスに強い若者の育成
  - ・こころの問題に対する科学的解明とそれに基づく対策
  - ・乳幼児期～思春期までのストレス脆弱性克服の教育体制の確立
  - ・最新脳科学に基づくストレス性精神疾患の予防・治療法の開発

##### 目的

健全な脳とこころを保持するために、学校教育・医療現場で実施可能な脳科学的根拠に基づくストレス脆弱性克服のための教育・治療プログラムの確立

医学（精神医学）、基礎科学（脳科学）、教育学（心理学・学校教育）が連携できる広島大学ならではの教育研究拠点としての機能を発揮

##### 効果、期待

- 少子高齢化の中で、わが国の将来を担う子供たちをグローバル社会で生きぬき、ストレスを克服できる人間として育成できる
- 世代を超えて急増するこころの問題、とりわけ深刻なうつ病、自殺対策に貢献できる
- 医学・基礎科学・教育学の文理融合型の新たな教育・研究体制のモデル構築が可能となる
- 難攻不落とされてきた「こころのメカニズム」の科学的解明にわが国から発信できる
- 教育の観点からの予防医学により、増大する医療費など社会保障費の削減に貢献できる

本件に係る照会先

小林 医歯薬学総合研究科長

082-257-5900

### ○ 事業の目的, 必要性・重要性, 取組内容の概要, 期待される効果

#### 【目的】

社会問題であるストレス性精神疾患の発症に関与するストレス脆弱性の脳内機構・分子基盤を解明し、早期診断法、根本的治療法を開発するとともに、医学、脳科学、教育学のトランスレーショナル研究(TR)により、学校教育・医療の現場で実施可能な脳科学的根拠に基づくストレス脆弱性克服のための教育プログラム・治療プログラムを開発する。

#### 【必要性・重要性】

深刻な社会問題であるうつ病や災害時の心的外傷後ストレス障害(PTSD)などのストレス性精神疾患に対して、本事業では成長段階の環境要因を受けて形成されるストレス脆弱性の観点から、早期診断法、根本的治療法を開発するとともに、その克服のための教育プログラム・治療プログラムの開発を行うもので、その必要性・重要性は非常に高い。

#### 【取組内容の概要】

- 1) 健常人、患者を対象とした脳機能解析研究：MRIを用いた脳機能画像解析を中心に、うつ病、PTSD、不安障害などの発症基盤となるストレス脆弱性の脳内機構及び健常人におけるストレス適応機構を解明する。
- 2) モデル動物、生体試料を用いたゲノム・エピゲノム解析研究：次世代シーケンサーなどを用いたゲノム・エピゲノム解析により、ストレス性精神疾患の病態及びストレス脆弱性の分子基盤を解明し、早期診断法、根本的治療法の開発を行う。
- 3) 患者死後脳を用いた分子病態解析：現在構築中の脳バンク、ゲノムリソースバンクを活用した分子病態解析などについては、理化学研究所脳科学総合研究センターと共同で実施する。
- 4) モデル動物の開発とその分子病態の解明：ストレス性精神疾患モデル動物を作製し、遺伝子発現解析などによってストレス脆弱性の分子病態を解明し、その早期診断法、根本的治療法の開発へと展開する。
- 5) 脳科学的根拠に基づくストレス脆弱性克服プログラムの開発：学校教育において実施可能な教育プログラムを教育学研究科、総合科学研究科と、医療の現場において実施可能な治療プログラムを保健学研究科との共同で作成する。

#### 【期待される効果】

ストレス脆弱性の観点からストレス性精神疾患の病態解明、早期診断法及び根本的治療法、脳科学的根拠に基づく克服プログラムを開発することは、急増するストレス性精神疾患患者の減少に繋がる。特にストレス脆弱性の形成期となる学校教育における教育プログラムの開発は、これまでの対処療法とは一線を画すもので、高い予防効果が期待される。

## 平成24年度政府予算案に盛り込まれた運営費交付金【特別経費】の概要

【欄外※は説明資料を添付した事業を示す】

- 特別経費（プロジェクト分 ー国際的に卓越した教育研究拠点機能の充実ー）

部局等	事項名	概要
理学研究科	先駆的両生類研究の展開 ー両生類絶滅危惧種の保全と標的遺伝子破壊方法の開発ー	両生類絶滅危惧種の保全と遺伝的多様性解明、両生類実験動物の標的遺伝子破壊方法の開発など先駆的両生類研究を展開し、これを両生類実験動物の作製・収集に活かし、世界的な両生類研究・リソースセンターとして生命科学の研究基盤に貢献する。
原爆放射線医科学研究所	放射線災害医療の国際教育研究拠点確立に向けた機関連携事業	原爆被爆者に対する医療と次世代の放射線被ばく医療開発を行ってきた広島大学が、放射線医療科学の国際コンソーシアムを推進する長崎大学と連携し、広くアジア諸国等を含めた放射線障害予防や被ばく医療研究の国際拠点を確立する。

- 特別経費（プロジェクト分 ー高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実ー）

部局等	事項名	概要
歯学部	アジアと連携したグローバル化対応型高度歯科医療人教育システムの構築	急激な歯科医療の国際化に対応するために国際歯学コースの開設による国際共同プログラムを実施し、日本人学生、教職員のグローバル化対応力を強化するとともに、今後飛躍的な成長が見込まれるアジアにおける歯科医学・医療分野の指導的人材育成を行い、国際医療人ネットワークを形成する。
アクセシビリティセンター	アクセシビリティ分野の循環型専門教育プログラムの構築 ー持続可能なUD社会を目指してー	アクセシビリティ分野に係る研究環境を整備し、当該分野の研究者を養成するとともに専門教育プログラムを開発する。これにより「グローバル社会のUD化」「持続可能な社会」の創造に資する学生・社会人リーダーの育成を推進し、専門教育機能の充実を図る。
社会科学研究科	社会人大学院モデルの深化 ー理論実践融合型マネジメント教育システムの高度化による達成ー	社会人大学院において、その核としてきた理論実践融合型マネジメント教育システムを高度化することで、社会人大学院モデルの深化を図るとともに、地域社会への貢献を果たすための拠点を広島大学に構築する。
医学部	21世紀医療に応える医療技術トレーニングシステムの構築 ー医療技術の客観的評価と認知心理学的手法を用いた資質別グループ学習ー	本学で開発した客観的スキル評価装置(HUESAD)と認知心理学的評価手法を基盤として医学部教育における統合的臨床実習プログラムを構築し、個々の学生の資質と技能に応じた臨床実技能力の補完、向上を実現する教育システムを開発、実践する。
病院	ドクターヘリ・ICTを取り入れた総合的遠隔地救急医療支援人材育成プログラム	重症救急初期診療、ヘリコプターによる航空医療、ICTを用いた遠隔地医療を実践できる人材育成を目標とした総合的遠隔地救急医療支援人材育成プログラムを構築する。
教育室	挑戦し行動する人材育成プロジェクトの推進 ー幅広い教養を身につけ積極的に未来社会を支える人材の育成ー	21世紀の社会は、知識・情報・技術が大きく変動する中で、それらを利用、峻別あるいは的確な判断が問われる「知識基盤社会」になる。大学教育の使命は「知識基盤社会」の担う「21世紀型市民」を養成することであり、教養教育の改革、それに伴う再構築により社会に貢献できる優れた人材を育成する。

- 特別経費（プロジェクト分 ー大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実ー）

部局等	事項名	概要
医歯薬保健学研究科 教育学研究科 総合科学研究科 原爆放射線医科学研究所	こころのストレス脆弱性克服のための医学・脳科学・教育学連携プロジェクト	うつ病などのストレス性精神疾患の発症に関与するストレス脆弱性の脳内機構や分子基盤を解明し、早期診断法及び根本的治療法の開発を行うとともに、医学、脳科学、教育学の学際的研究により、脳科学的根拠に基づくストレス脆弱性克服のための教育プログラム・治療プログラムを開発する。
歯学部	歯学連携ネットワークによる口腔からQOL向上を目指す研究	国立大学法人歯学部で口腔からのQOL向上を目指し、歯学研究ネットワークを活用した大学間協力連携により共同研究を推進するとともに、大学院教育の高度化の促進、卓越した能力をもつ歯学研究者・歯科医療人の育成を図り、国際的競争力を蓄積する。

(裏面に続く)

## ○ 特別経費（プロジェクト分 ー大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実ー）（つづき）

部局等	事項名	概要
病院 医歯薬保健学研究科 原爆放射線医科学研究所	緊急被ばくに対する先端的再生医療・細胞療法の臨床応用に関する推進事業 ー難治性疾患に対する再生・細胞療法の組織的有事利用システムの構築ー	広島大学での先進医療開発ならびに緊急被ばく医療開発を目指した細胞療法を戦略的に推進するために、癌や難治性疾患に対する現行の再生医療・細胞療法を組織的に有事利用するシステムを構築すると共に、今後の細胞療法に不可欠な細胞バンクを含めた細胞治療システムの整備による三次被ばく医療を担う。
医歯薬保健学研究科 総合科学研究科	脳科学研究を基盤とした発達障害の行動科学研究プロジェクト	発達障害研究は、これまで主に障害児教育という中で行われてきたが、脳科学による生物学的理解が可能な時代を迎えた。本事業は、発達障害の脳科学による最先端研究を行うとともに、その研究成果を環境も含めた支援という型に結び付け、かつそれらを担う人材を育成するものである。
国際協力研究科	平和構築の能力開発における実務と教育研究の連携を確立するための研究	広島大学を結節点とした平和構築の実務家・研究者の国際ネットワークを通じて平和構築における現地主導性を確保することのできる支援を行う体制を、援助実施機関や研究機関と連携して確立・維持するための実践的研究と方法的体系化を行う。
H i S I M研究センター	ウェアラブルな人工肺の開発に向けた有機新材料の開発と、この電気信号による制御技術の開発	人工肺に不可欠な、ガス交換機能を向上させるための有機無機ハイブリッド新材料の開発と、血液循環用ポンプに代わる電気信号によって動作するポリマー・アクチュエーターの開発によって、ウェアラブルな人工肺の開発を目指す。
学術室 (工学研究科)	中米・カリブ海諸国をフィールドとした持続可能な発展に関する研究	本学の「サスティナビリティ実践研究センター」の主たる目的である「持続可能な社会を構築するための諸課題の研究」を行うと同時に、その研究成果、特に「日本型ものづくり教育」と「海洋汚染修復研究」の適応可能性について、ドミニカ共和国を対象として調査研究を行う。また、本研究を通じて国際的な視野を持った高度研究人材を育成する。

## ○ 特別経費（基盤的設備等整備分）

部局等	事項名	概要
総合科学研究科	ナノスケールX線構造評価装置	本設備は、X線を用いて0.1~100ナノメートルの広範囲にわたる物質構造を決定するための装置である。通常、大型放射光施設で行われる生命・材料科学分野のナノレベル物質構造評価・材料創成の最先端研究に関する教育・授業を可能にする性能を有する。
原爆放射線医科学研究所	内部被ばく解析システム	内部被ばく解析システムは、簡易型ホールボディカウンタ及び放射能除染システムからなり、導入により放射性物質による体表面汚染を除染した後内部被ばく検査を短時間で正確に行うことが可能となる。

## ○ 特別経費（全国共同利用・共同実施分／教育関係共同実施分）

部局等	事項名	概要
原爆放射線医科学研究所	放射線影響・医科学研究の全国展開	原爆や各種放射線による障害に対する学術資料・研究手法と、先端的な研究機器を放射線研究者コミュニティに公開することにより、基礎研究から治療に至るまで、わが国の放射線影響・医科学研究を特段に推進し、人材育成を進める拠点として機能させる。
放射光科学研究センター	放射光先端計測による物質・ナノ科学研究プロジェクト	放射光科学研究センター（H i S O R）オリジナルの先端計測技術を用いてはじめて実施できる物質・ナノ科学分野の共同利用・共同研究を国際的に展開し世界トップレベルの放射光物質物理学研究拠点を構築する。また次世代小型放射光源の研究開発を推進する。
生物圏科学研究科	食料の生産環境と食の安全に配慮した循環型酪農教育拠点の構築 ー西条ステーション（農場）の拠点化による教育関係共同利用の推進ー	附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター西条ステーション（農場）の教育関係共同利用の拠点化により、農場の施設・設備を有効に活用し、他大学及び本学の農学系・非農学系学生を対象として、「農業から理解する命の尊厳」の教育及び「生命を食として利用する意味を考える食育」を体験的に認識させる教育を実践する。

## ○ 特別経費（設備サポートセンター整備）

部局等	事項名	概要
学術室	設備サポートセンター整備	全学的な研究設備マネジメントを担う「研究設備サポート推進会議」を設置し、自然科学研究支援開発センター及び技術センターと連携した全学的な研究設備のサポート体制の強化を図り、技術サポートの強化や研究設備の有効利用の促進等を進める。

(以上)

# 医歯薬学総合研究科と保健学研究科の改組・再編の概要

## 改組・再編前

## 改組・再編後

### 医歯薬学総合研究科

<b>D 創生医科学専攻</b> (入学定員 57人) 学位: 博士(医学), 博士(歯学), 博士(学術), 博士(医薬学)	
<b>D 展開医科学専攻</b> (入学定員 46人) 学位: 博士(医学), 博士(歯学), 博士(学術), 博士(医薬学)	
<b>M 口腔健康科学専攻</b> クリニカルコース リサーチコース (入学定員 12人) 学位: 修士(口腔健康科学)	<b>D 口腔健康科学専攻</b> (入学定員 4人) 学位: 博士(口腔健康科学)
<b>M 薬科学専攻</b> (入学定員 20人) 学位: 修士(薬科学)	<b>D 薬学専攻</b> (入学定員 12人) 学位: 博士(薬学)
<b>M 医歯科学専攻</b> (入学定員 20人) 学位: 修士(医科学), 修士(歯科学), 修士(学術)	

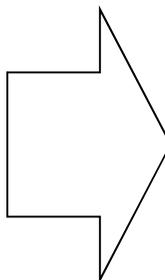
### 保健学研究科

<b>M 保健学専攻</b> (入学定員 34人) 学位: 修士(看護学), 修士(保健学)	<b>D 保健学専攻</b> (入学定員 17人) 学位: 博士(看護学), 博士(保健学)
--	--

### 医歯薬保健学研究科

※各プログラムにおける人数は、受入れ枠を示したもの。

<b>D 医歯薬学専攻</b> ※ (入学定員 97人) 学位: 博士(医学), 博士(歯学), 博士(薬学), 博士(学術)	
医学専門プログラム (60人) 歯学専門プログラム (27人) 薬学専門プログラム (3人) 放射線医科学専門プログラム (7人)	
<b>M 口腔健康科学専攻</b> クリニカルコース リサーチコース (入学定員 12人) 学位: 修士(口腔健康科学)	<b>D 口腔健康科学専攻</b> (入学定員 4人) 学位: 博士(口腔健康科学)
<b>M 薬科学専攻</b> (入学定員 18人) 学位: 修士(薬科学)	<b>D 薬科学専攻</b> (入学定員 3人) 学位: 博士(薬科学)
<b>M 保健学専攻</b> (入学定員 34人) 学位: 修士(看護学), 修士(保健学)	<b>D 保健学専攻</b> (入学定員 15人) 学位: 博士(看護学), 博士(保健学)
<b>M 医歯科学専攻</b> 医歯科学コース 医学物理士コース (入学定員 12人) 学位: 修士(医科学), 修士(歯科学), 修士(学術)	



教育組織

教員組織

医歯薬保健学研究院